



北齋作品目錄

北齋





○葛飾北齋

一生徳兵衛 <small>みろ</small> 三の傳 <small>青本</small>	三		安永九
驪比翼塚 <small>りびり</small>	二	勝川春朗	〃
公大無多言 <small>洒落本</small>	一	〃	天明元
富賀川拜見	一	春朗	〃二
江戸紫二度色揚 <small>青本</small>	五	可笑作	〃
鎌倉通臣傳	二	魚佛作	〃
四天王大通仕立 <small>達</small>	二	〃	是和齋作
感陽宮通約束	二	春朗 <small>みたのだい町</small>	〃三
運開扇之花香	二	春朗	〃四

やくそく
春朗

天狗春訓改

のそきからり義經山入 三 勝春朗 井久治茂内作 四
教訓雜長持 讀本 五 勝川春朗 伊藤單朴作 六 再刻

○原版は寶曆二年、天明四年の再版に初めて春朗の極畫あり

親讓鼻高名 青本 三 春朗改 可笑門人 雀聲作 五

怨念宇治の螢火 二 勝春朗 自惚山人作 六

前々太平記 五 春朗 通笑作 六

未見 二 天作二進一十 三 春朗 通笑作 六

大佛左捻 三 白山人可候画作 六

たほらさけん のへそ 二 蛇腹紋原之仲町 二 春朗改 白雪紅作 六

ときわ 二 我家樂之鎌倉山 二 群馬亭画作 六

口蓮一代記 刊子ふ記

ひりんのこい

人間萬事二天作五 二 群馬亭 通笑門人 天明八

臭氣麻放倉榮 二 春朗 錦森堂軒東作 寛政元

流行謡混雜唱舞 二 美足齋象睦作 二

福來留笑顔門松 二 勝春朗 通笑作 二

六歌仙 三 春朗 通笑作 二

新作徳盛はな 二 勝春朗 通笑作 二

いもたのゆら 二 龍宮洗濯噺 二 春朗 三

名代の振袖心中 二 内新好作 三

實語教幼稚講釋 三 春朗 京傳作 四

二 鶴頼政名歌芝 二 二

天神七代祀

未見

花春風道行

二 春朗

馬琴作

昔桃太郎發端語説

三

京傳作

女莊子胡蝶夢魂

二

黒木作

智惠次第箱根詰

三

春道草樹作

貧福西道中之記

三

京傳作

東大佛楓名所

三

白山人可候画作

大佛餅東総佛名所

三

小人七々里富貴

二

(春朗画)

六

硯見喻節穴

二

坪平作

福壽海無量品玉

三

馬琴作

女莊子
はこぬ
多福言年記

除存分女伝名
子存 百琳宗理

狂歌聯合女品定

狂歌入繪本 中

二 叢春朗

歌布の紐わみくせ薬

青本

三 (春朗画)

坪比良作

尤世界手前清本穂の轡

二

芝櫻川

八

朝比奈御髭の塵

二

慈悲成作

歸化種

狂歌

中 一九四五丁
彩巻入

百琳宗理画

駒組童觀抄

将棊

小一

春朗画

九

三だら霞

狂歌

中一

北齋宗理

柳の絲

大一

素後壯靈信

青本

二

宗理画

芝全交作

化物和本草

三

豊可候

京傳作

り

有疑
可除致
やまといんそ

東遊

狂歌入
繪本

六一

豊北齋

ク、土月

こずゑのゆき

六一

彩色 不凍居北齋画

ク、土月

青樓夜聞初の月

一

彩色 藏前の小僧画

神田菴
あつ九作

今日歌白猿一首

一

依屋宗理(門人宗三)

ク、二月

東都勝景一覽

六一

彩色 畫工北齋辰政

ク、二月

春帖

狂歌

六一

北齋画

鸚鵡齋撰

やま田の穂並

箏曲 中一

一

榎本珍盛編

寛将軍勅畧之卷

青本

三時太郎可候画作

享和元

眞平兒童文殊稚教訓

三

享和元

女房三十六人歌合

和歌 六一

彩色 画狂人北齋画

ク

二天作五
中の花 群馬

可除

插花衣之香

生花 中四

東陽画工 俵屋宗理筆

ク

隅田川兩岸一覽

繪本 大三

彩色 画工北齋辰政

ク

仕懸仇手本前編

洒落本 一

画狂人北齋筆

小舎
あつ九作

ク

下界驪鼻落天狗

青本 三

春期改メ 羣馬亭画

可笑門人
雀声作

ク

紀布毛等濃夷詞

狂歌入 中一

宗理

ク

一五拾人五十鈴川狂歌車

六一

彩色 画工北齋辰政

ク、二

潮來絶句

情歌 小二

十六寸
彩色

富士唐麻呂著

ク

畫本東都遊

情歌 大三

彩色

畫工北齋

ク

○本畫寛政十一年の東遊を改題し彩色摺とせしものなり

繪本忠臣藏

中二

彩色 東都画
北齋辰政

ク

可除

同風集

狂歌

横中

一 彩色

画狂人北齋画

リ

新板塵劫記

青本

三

時太郎可候画作

リ

繪小倉百句

川柳

中

一 畫工北齋辰改

リ

昔貝嗚呼蜃氣樓

青本

三 北齋画 曼亭鬼武作

リ

古今延蜃拾草

讀本

中

五 画狂人北齋画 山家廣住編

リ

不厨危即席料理

青本

三

時太郎可候画作

リ

塵劫記由来胸中兼用嘘后卸

三五十五張

青本

三 可候画

リ

三國和漢蘭雜話

三

曼亭鬼武作

リ

狂歌山滿多山

大三

彩色

北齋画 大原亭撰

文化元

守節難小説比翼異文

讀本

小二 北齋辰改画

馬琴作

リ

未見

真柴久吉御伽山崎合戦

青本

二

リ

両面出世鑑娘敵討陸友綱

二

時太郎可候画 虚谷利作

リ

みそか葛籠

初編

前句附

小

一 彩色入

画狂人北齋画

方古庵

白水撰

未見 署名不確

落年男笑種

一

葛飾北齋画

紀尾佐九作

リ

百轉

狂歌

六一七丁

東都画工

画狂人北齋

桑揚庵撰

文化二

新編水滸畫傳

讀本

初編前帙

中

五 葛飾北齋画 曲亭翁編

リ

石堂丸苴萱物語

五

畫工北齋子

馬琴編

リ

新田義統功臣録

初二輯

一

葛飾北齋画

小枝繁著

リ

繪本東嫩錦

リ

五

画狂人北齋画

リ

玉柳翁 文化三子

繪本壁落穂 前編 五 葛飾北齋画 〃 〃

○後編は文化五年刊、北齋辰政画と署せり

阿波濃鳴門 〃 五 画工葛飾北齋 柳亭種彦著 〃 四

椿説弓張月 前編 六 葛飾北齋綉像 曲亭馬琴著 〃

○後編六冊文化五年春・續編六冊文化五年十二月・拾遺六冊文化七年八月・殘編六冊文化八年三月刊。画工署名は前編に同じ

敵討裏見葛葉 〃 五 北齋子の画 曲亭主人の作 〃

新累解脱物語 〃 五六 葛飾北齋画 馬琴著 〃

墨田川梅柳新書 〃 六 〃 〃 〃

標註そのゆき 〃 五 〃 〃 〃

遊君操連理餅花 合巻 二 〃 〃 〃

未見

市川追善數珠親玉 小一 葛飾北齋 〃

三七全傳南柯夢 読本 中六 〃 画 馬琴作 〃 五

頼豪阿闍梨恠藏傳 〃 〃 八 画匠葛飾北齋 〃 〃

近世怪談霜夜星 〃 〃 五 かつか北齋画 種彦作 〃

由利桙居鷹 〃 〃 五 画工葛飾北齋 萬亭與馬作 〃

國字鶴物語 〃 〃 五 画人葛飾北齋 詞客 為華長根 〃

梅川忠兵衛木之花双紙 〃 〃 三 北齋画 小枝繁著 〃

赤繩奇縁傳 〃 〃 〃 〃 〃 〃

勇略女教訓 青本 五 画狂人北齋画 十返舎九著 〃

北島女教訓 〃 〃 〃 〃 〃

○前書と同本異名、改題の先後印刷の鮮不鮮によりて考ふべきも、一堂に於いて同時に點見するを得ずしては確定し難し

未見

安齋多羅賢物語

讀本 中 五二

振鷺亭作

敵討報蛇柳

青本

六 繪摸画狂北齋

松井三和作

敵討身代名號

六 北齋画

馬琴作

狂訓己がつゑ

五 画狂人北齋画

一九著

假名後日之文章

讀本 中 五 葛飾北齋画

馬馬著

後編總角物語

小二 画師葛飾北齋

談洲樓門人 柳亭種彦作

山椒大夫榮枯物語

中 五 画工

梅暮里谷峨編

忠孝潮來府志

五 出像

談洲樓馬馬著

飛彈匠物語

六 葛飾北齋画

六樹園飯盛著

於陸 幸助 戀夢 前編

三 画葛飾北齋

樂々庵桃英著

己知羣夢多字画尽

前後編 小二

葛飾北齋戲画

秋秋妹脊山

讀本 中 六

葛飾北齋画 振鷺亭著

雙蛺蝶白糸冊子

五

出像 葛飾北齋辰政 為葉亭長根作

串戲二日醉

下編 滑稽本 小 一

葛飾北齋画 一九著

新編月熊坂

青本

三 時太郎画作

畫道獨稽古

三

文化九年九月 辛未新板ト記セリ 葛屋重三郎板

略画早指南

初編 小 一

戴斗画

文化九年二月 角丸屋甚助等板

○後編は文化十一年刊、三編は刊年不明、このれも戴斗画と署せり

青砥藤綱摸稜案前後集

讀本 中

一。葛飾北齋雷震繪画

曲亭馬琴稿本

前集 文化九年四月 后集

北齋子氏中 文化壬申

四原後太老執持

未見

老印

敵討身代名號

三七全傳 占夢南柯後記 四、五 葛飾北齋画 馬琴編 九

第二編 第三編 四

經島 松王物語 六 小枝繁編

堀川太郎百首題狂歌集 葛飾北齋

北齋寫真畫譜 大 十五丁 彩色又 文化十年十二月 〇文化十年發賣 一〇

勢田橋龍女本地 誌本 中三四 葛飾北齋画圖 種彦編

〇本書文化七年八月の序文あり、文化十年は葦一再販なりし

勝鹿園志 地誌 一 北齋

寒燈 小栗外傳 讀本 一・二・三編 一七 小枝繁編

夜話 〇本書文化十年の序文ありと文化九年十月より同十年九月に亘りて發賣せしものなり

北林略画式 文化十年 山火玉物志 天狗巻 天狗

傳神 北齋漫畫 一編 中 一 東都画工 葛飾北齋筆 文化一二月

二編 一 北齋改 葛飾戴斗 一二月

三編 一 一 東都畫工 葛飾北齋筆 一月

繪 淨瑠璃絶句 一 一 東都畫工 葛飾北齋筆 一月

文覽上人 橋供養 讀本 五 前北齋画 絳山編

四々郷談 五 画匠 前北齋戴斗筆 馬琴著

踊獨稽古 小 一三丁 葛飾北齋画編 藤間新三郎補 頁

〇此書淨瑠璃絶句と同署名なりと前北齋の筆にあらざるは筆意を以て知るべし

三體畫譜 中 一 彩色又 東都畫工 北齋改葛飾戴斗 一三春

傳神 北齋漫畫 五編 一 夏

可除

北齋鹿畫 大一 彩色 東都畫工 葛飾戴斗筆 文政三、五月

東海探語 洒落本 一 前北齋為一筆 〇四

諸職畫譜 横小本 一 前北齋改 葛飾為一 〇五

○本書刊年月は種考の序文に於て、文政六年五月刊本の今様
柳菴雛形の改題なりと想起す。前書の改題なり。

傳神一筆畫譜 中一 彩色 東都畫工 葛飾北齋筆 〇六

今様柳菴雛形 横小本 三 北齋改 画狂老人画圖 〇六、五月

新形小紋帳 小一 〇刊年は種考の序文に於て 〇七

最明寺殿 和歌百首 教訓假名式目 中一 画圖 前北齋為一 〇一、一月

狂歌花鳥風月集 一 六樹園撰 〇

料理通 二編 小一 北齋改 為一筆 〇八

未見 未見

狂歌の集 中一 彩色 為一 〇九、六月

還魂紙料 随筆 大二 為一 縮圖 柳亭種彦編 〇十、青

蘆の一もと 俳文 大一 北齋改 為一筆 田喜庵輯 〇一〇、夏

繪本庭訓往來 中三 畫工 前北齋為一画 〇一一

光悦 正流 盆畫獨稽古 初編 横小本 一 為一筆 〇一二、九月

忠義水滸傳畫本 中一 葛飾前北齋為一筆 〇一三、二月

百八星誕肖像 〇

○前書の見返りに記せり。或は前書は本書の改題か、飯島虛心の北齋
傳には本書を擧げて「忠義水滸傳畫本」を云々せず

書畫帖 大一 彩色 為一 天保元

畫本獨稽古 小一 〇北齋漫画初編ノ畫ヲ 裝用セリ 〇一三

花雪吹縁の柵 合巻 小二 前北齋為一 春

○本書内容は國芳の畫にして、北齋は其表紙を畫けるなり。相州磯部作とあれども、種彦の案によりて画けるなり。

唐詩選畫本 五言律 中五 前北齋為一畫 夕四、一月

出世奴小万傳 合巻 小二 前北齋為一 種彦作 夕

○内容は國直の畫にして、表紙にのみ畫けるなり。

傳神北齋漫畫 十二編 中一 夕五

○刊年及び画工署名のものを未だ見ず、天保五年は為菜亭の序文に北

繪本忠經 一 葛飾前北齋為一老人画 夕一月

富嶽百景 初編 夕一 七十五齡 前北齋為一改 画狂老人画 夕

○刊年は種彦の序文により、七十五齡と記せしは天保四年なるべく、而して發行は翌天保五年なりは、理に於て然るを知るに足る。

富嶽百景 二編 一 夕六、一月

富嶽百景 三編 一 夕

○本編刊年記入のもの見ざれども、飯島虛心の北齋傳には二編と同じとあり、而して天保六年は翁が七十七歳の時なりとあり。

畫本千字文 中一 葛飾前北齋為一畫 夕十二月

料理通 四編 小一 時年七十五 前北齋為一 夕二月

○本書天保四年に畫けるを、此年に至りて發行せしか、或は再版か猶考ふべし。

繪本魁 初編 中一 七十七齡 前北齋改 画狂老人画 夕七月

諸職新鄙形 中一 七十七齡 前北齋為一改 画狂老人画 夕

繪本武藏鎧 中一 前北齋画狂老人画 夕八月

唐詩選畫本 七言律 中五 画狂老人画翁筆 夕九月

日光山志

地誌 大五

馬狂老人出 齡七十二

天保八二月

○北齋天保元年に畫けるを知る

繪 和漢陰陽傳

中一 前北齋改画狂老人出筆 二

傳 手 雙錦畫鑑

横小本 一 前北齋為一老翁 二 補刻

○署名は序文による。

○本書天保六年刊の今様櫛篋羅紙の改題なり

繪 本 名頭武者部類

小一 北齋改葛飾為一筆 秋

花の十文 附 十論考

中一 彩色 八十二雙 画狂老人出筆 二 款

北齋漫畫 草筆之部

中一 彩色 前北齋出翁筆 二 四

出翁草筆畫譜

二 一 三十一丁半 二 一 二

傳 神 北齋畫苑

初編 一 十九丁半 二 一 二

天保三

○以上三書大同小異のものにして、其改題の先後今處に判じ難し

釋迦御一代記圖會

大六 前北齋出老人鋪像 弘化二

好花亭野亭考選

○天保十年十月大徳寺大綱和尚の序ありて早く七年以前に企圖せられたるを知る

繪 本 武者部類

小一 十丁半 無署名 三 一 月

○天保十二年の名頭武者部類の改題なりと想像さるるも今は確定し難く、彼は花堂外史の序、此は松蔭居士の序、彼は甘泉堂此は清光樓の序

烈女百人一首

小一 細画葛飾出老人 二 四、一月

○本欄の畫は一陽齋豊國にして、北齋は上欄の細画 十丁のみなり

繪 彩色通

一 二 編 小 二 画狂老人筆 三 五、一月 嘉永元

秀雅百人一首

小一 前北齋出老人 二 嘉永元

北齋畫譜

中一 二

天保十二

海氏一統 治三 此亦天保元年

天保五

花の十文 附 十論考

傳神北齋漫畫 十三編 中一 葛飾為一老人筆 ヲ

○北齋九十歳にして嘉永二年四月十八日歿せりと云は本書第十四編は刊年明記のものを見ざるが或は歿後の刊なりし

續英雄百人一首 小一 前北齋出老人 ヲ

繪本漢楚軍談 初輯 讀本中一 葛飾出老人 八右衛門画圖

鶴鶴鳥見高 長次郎纂述 標齋阿部喜任補正

○本書刊年不明なりしが二編十卷は弘化二年正月發行なりは其前年弘化元年と断定すも大凡は誤りなからべし

二編 一〇 東都画工葛飾為一出老人 ヲ 弘化二年

○北齋歿後の刊本

繪本和漢譽 中一 前北齋画狂老人出筆 嘉永三、一月

○本書卷末の畫に豆相の旅客前北齋改画狂老人出筆時七十六歳と署せると以て見れば早く天保五年に取れざるを知るべく或は再版もの歟

繪本孝經 中一 前北齋出老人画 ヲ 十月

想山著聞奇集 隨筆 大五 八十八卷出 ヲ 十月

○此畫早く弘化四年の企圖なるを知るべし

義烈百人一首 小一 前北齋出老人 ヲ 一月

北齋畫本雛形 横小本一 画狂人北齋画 文久二、九月

北齋臨畫 中一 彩色文 筆者 故人 葛飾北齋 明治一〇、八月

○本書北齋漫畫のある編を改題せるものなり。吉川半七の發行なり

北齋漫畫 十五編

中一 彩色文

葛飾北齋先生遺墨

○本書明治十一年、名古屋、片野東四郎の發刊なり。前の北齋臨畫は古板木を用ゐて摺れたるものにて理におして怪む點をけんども、此書は北齋の遺墨にてあり、か、序跋等も無くして其の経緯を知るに由なし。

○北齋の繪本にして刊年不明のもの

傳神北齋漫畫 十四編 中一 彩色文

○第十三編は嘉永二年、十五編は明治十一年の刊なり。本編は北齋の歿後遠からずして發刊せしもの、如し。

畫本兩筆 狂歌入 大一 北齋戴斗

道中画譜 中一 彩色文 前北齋為一翁画

北齋女今川 中一 彩色文

東海道繪本驛路鈴 一帖 極彩色文

粹古傳 滑稽本 小一 前北齋戴斗筆 北粹陳人述

仇手本通神藏 洒落本 一画 狂人北齋筆 少全あつ丸著

未見

喜夜來大根

洒落本一

梨白散人作

○安永年間の刊本なりと云ふ

忠臣藏後割題詠

狂文

小一

六樹園撰

獨發句

大二

彩色又

画狂老人北齋

露之淵

中一

北齋

十二評狂歌國畫

中一

画工北齋先生

催主

瀬川路蝶

○本書門人十三名と共に畫きたる十四回のものなり

狂歌三愛集

中一

北齋画

狂歌百人一首

中一

岳亭共画

月花帖

狂歌

中一

北齋画

兼題

水鳥 寄鳥 癡

狂歌

中一

北齋画

催主 淺歲庵振方

兼題

水鳥 冬 癡

中一

北齋画

春乃曙

狂歌

中一

彩色又

百琳宗理画

夷月微妙

狂歌

中一

画狂人北齋画

○葛飾北齋に名目ありて予の未見のもの

江戸八景真圖

一冊

畫說

〃

商人鑑

三冊

大成百人智慧鑑

一冊

萬代百人一首標文章

〃

名山勝景真圖

〃

両山道一覽

三冊

吾妻百人一首玉章

一冊

北齋圖考

〃

美智迺志遠里

一冊

文久二

地文雛形

為一畫譜

○増補浮世繪類考に名目ありて予の未見のもの

寫真畫譜

○これ文化十年の北齋寫真畫譜の事をいふし

戴斗畫譜

北齋畫叢

北齋畫鏡

○署名無きも北齋の畫と見るべきもの

青樓夜の閨明の月

洒落本

一彩色入

神田蒼應齋藏前の山僧画

神田あつ丸作

寛政二

讚極史

さほ丸著

○為一の署名あるも北齋とは別人の疑あるもの

光悦正流盆画獨稿古

初編

横山本

為一筆

○他に題簽烏有に歸して名目を擧げ難きもの數十

種、世に北齋畫と稱せしむるがら實は戴斗(亀屋

喜三郎)即ち大段北齋の畫きたるもの數種あり、
亀屋戴斗の作品は別に列記せり

